

せいけん
詩集

第百三十八篇

作：近藤せいけん

「稲穂のにおい」

秋の日の いつもの

田んぼの中の 散歩路

青い色から 黄色に変わり

秋の深まりが 見える

稲穂のにおいが涼しい風に

乗って広がる

秋だよ 実りの秋だよと

こつべを垂れる

秋トンボが 群れ

揺れる稲穂に 降りる

空は澄み高く 秋風が

稲穂のにおいを 小路一杯に

満たし運んでくる

見上げれば 大山

遙かに聳え

秋の雲 かかる

